

# 学校からの発信

—考えよう！子どもたちの食を 学校と家庭、そして地域で—

## 学 校

体育科 保健体育科  
家庭科 技術・家庭科  
社会科 理科

☆ 教科の中で  
教科のねらいと関連付けて指導できるもの、工夫次第で教材として活用できるものがあります。

☆ 特別活動の学級活動の中で  
指導する内容として、給食時間では指導しにくい内容、子どもたちが話し合っ解決する必要がある内容、まとまった時間をあてて指導する内容などがあります。

☆ 給食時間の中で  
学校給食は年間180回程度実施されています。この中で意図的、計画的にくり返し具体的な指導ができます。あとは、家庭での食事がほとんどです。したがって、望ましい食習慣の体得には、家庭の協力が不可欠です。

☆ 保健指導の中で  
全体、個別の健康問題に対して、健康な生活が実践できるような食生活のあり方を指導します。

☆ 総合的な学習の時間の中で  
食は、身近な生活の中で見つけやすい課題であり、多くの教科を総合する性格があります。地域には、さまざまな食に関する専門家がいるので、地域と一体となった学習が実施できます。

☆ 学校行事の中で  
集団への所属感を深め、望ましい態度や協力する心が育ちます。  
給食指導を総合的に発展させることができます。  
内容としては、健康診断や給食に関する意識を高めるなどの健康に関する行事、運動会など体育的な行事等があります。

家 庭

地 域



# 家庭・地域との連携をめざして

食に関する指導は学校給食を核にして実施されますが、給食の回数は年間約180回であり、食事全体の約1/6しかありません。したがって、家庭での食事が大切になります。学校で学習したことを家庭で実践したり、児童生徒からの食の情報や食卓での話題にするなど、正しい食習慣や食生活を家庭に啓発し、家庭との連携・協力体制を築くことが、食に関する指導の充実には欠かせません。

また、総合的な学習の時間に代表されるように、これからの教育活動は地域との連携無くして成立しません。もちろん、食に関する指導の時間も同様です。

地域には、保健所などの関係機関がありますし、食に関する専門家もたくさんいます。教材に関しても、それぞれの地域の環境に適応した生産物や郷土食があり、今でも地域の産業となっている生産物があります。多くの学校給食では、献立に郷土食を、食材に地場産物を取り入れていますので、給食を通しての地域との結びつきも深いものがあるのです。

食に関する指導における家庭や地域との連携を図る活動としては、次のようなものが考えられます。

## 家庭や地域との連携を図る活動例

### 1 学校 → 家庭（学校から家庭へ）



- 給食だより・保健だより
- 給食試食会・親子料理教室
- 食に関する指導実践などの情報提供
- 栄養個別指導

### 2 家庭 → 学校（家庭から学校へ）



- 体験活動を始めとする学習への協力
- 学校保健委員会・学校給食委員会への参加
- 食のアンケート調査への協力
- 給食試食会・親子料理教室への参加

### 3 学校 → 地域（学校から地域へ）



- 食に関する講演会の実施
- 地域主催の「健康フェスタ」等の行事への参加
- 地域学校保健委員会等への協力
- 地域との「交流給食」

### 4 地域 → 学校（地域から学校へ）



- 食に関する講演会への参加
- 地域主催の「健康フェスタ」等の行事への参加依頼
- PTA主催の「親子クッキングコンテスト」の実施
- 保健所を中心とした食のネットワーク作り

資料：文部科学省「学校教育活動全体で取り組む 食に関する指導」